

SECカーボン

2023年3月期 決算説明資料

現行中期経営計画の進捗状況

2023年5月12日

2023年3月期 決算

2023年3月期 連結損益比較

- ・売上高については、世界経済の持ち直しを背景として、特にアルミニウム製錬用カソードブロックの販売が好調であり、増収となった。
- ・各利益については、原燃料価格、電力料金等の上昇によるコストアップ要因はあったものの、販売数量の増加や為替レートが円安に推移したことによる輸出の収益性改善により、増益となった。

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	増減額	増減率
売上高	22,919	30,401	7,482	32.6%
営業利益	3,222	6,490	3,268	101.4%
経常利益	3,779	7,610	3,831	101.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,039	5,402	2,363	77.7%
為替レート (円/USD)	112.89	134.84	21.95	

2023年3月期 連結売上高比較

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	増減額	増減率	増減理由
アルミニウム製錬用 カソードブロック	12,332	19,353	7,020	56.9%	更新需要堅調により、販売数量増加
人造黒鉛電極	6,604	6,615	10	0.2%	国内外の粗鋼生産低迷により 販売数量伸び悩み、前年同期並
特殊炭素製品	3,040	3,681	640	21.1%	特に非鉄金属関連、各種工業炉向けの 需要堅調
ファインパウダー 及びその他炭素製品	941	751	▲ 189	▲ 20.1%	一部顧客にて、中国の経済活動抑制の 影響のため、販売数量減少
合計	22,919	30,401	7,482	32.6%	
国内比率	34.8%	27.2%			
輸出比率	65.2%	72.8%			

2023年3月期 連結貸借対照表 及び 連結キャッシュフロー計算書比較

連結貸借対照表

単位：百万円	2022年3月期末	2023年3月期末	増減額
流動資産	44,095	47,960	3,864
現金及び預金	22,438	19,367	▲ 3,071
受取手形及び売掛金	6,890	11,590	4,700
棚卸資産	14,502	16,682	2,179
固定資産	18,512	24,594	6,081
有形固定資産	9,245	10,550	1,305
投資有価証券	9,010	13,789	4,779
資産 合計	62,608	72,554	9,946
流動負債	4,183	7,029	2,846
買掛金	2,315	3,643	1,328
未払法人税等	478	1,799	1,320
固定負債	2,361	3,114	752
負債 合計	6,544	10,143	3,598
純資産 合計	56,063	62,411	6,347
利益剰余金	40,990	45,377	4,386
負債純資産 合計	62,608	72,554	9,946
自己資本比率	89.5%	86.0%	▲ 3.5%

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2022年3月期	2023年3月期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	16,385	22,188	5,802
営業活動によるCF	7,615	2,337	▲ 5,278
税金等調整前当期純利益	3,728	7,575	3,847
減価償却費	1,201	1,117	▲ 83
売上債権の増減額	17	▲ 4,700	▲ 4,717
棚卸資産の増減額	1,105	▲ 2,179	▲ 3,284
仕入債務の増減額	1,187	1,328	140
法人税の支払	▲ 510	▲ 927	▲ 417
投資活動によるCF	▲ 954	▲ 4,349	▲ 3,394
有形固定資産の取得	▲ 806	▲ 2,268	▲ 1,461
投資有価証券の取得	▲ 18	▲ 1,935	▲ 1,916
財務活動によるCF	▲ 826	▲ 1,027	▲ 200
配当金の支払	▲ 812	▲ 1,015	▲ 202
現金及び現金同等物の期末残高	22,188	19,087	▲ 3,101
現金及び現金同等物の期中増減額	5,802	▲ 3,101	▲ 8,903

トピック

・日本カーボン(株)との資本業務提携による株式取得(1,910百万円)及び所有株式の株価上昇のため、投資有価証券は増加した。

2024年3月期 連結業績予想

2024年3月期 連結業績予想

- ・売上高は、特にアルミニウム製錬用カソードブロック及び人造黒鉛電極の販売増加により、通期で前期実績を上回る見込みである。
- ・営業利益は、原燃料、電力料金等のコストアップ要因はあるものの、販売数量増加や販売価格是正への取り組みの影響により、通期で前期実績を上回る見込みである。
- ・経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、通期で前期実績を下回る見込みであるが、これは前期実績では、為替差益等の一過性の営業外収益が多かったためである。

単位：百万円	2Q累計				通期			
	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減額	増減率	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減額	増減率
売上高	12,518	17,600	5,082	40.6%	30,401	37,800	7,399	24.3%
営業利益	2,344	3,000	656	28.0%	6,490	6,600	110	1.7%
経常利益	3,041	3,200	159	5.2%	7,610	6,900	▲ 710	▲9.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,136	2,200	64	3.0%	5,402	4,700	▲ 702	▲13.0%
為替レート (円/USD)	133.17	125.00	-	-	134.84	125.00	-	-

2024年3月期 連結売上高予想

・特にアルミニウム製錬用カソードブロックの更新需要が堅調であり、また人造黒鉛電極の需要も回復を見込むことから、前期実績を上回る見込みである。

単位：百万円	2Q累計				通期			
	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減額	増減率	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増減額	増減率
アルミニウム製錬用 カソードブロック	7,410	10,560	3,150	42.5%	19,353	22,957	3,604	18.6%
人造黒鉛電極	3,112	4,741	1,629	52.3%	6,615	10,135	3,520	53.2%
特殊炭素製品	1,569	1,938	369	23.5%	3,681	3,938	257	7.0%
ファインパウダー 及びその他炭素製品	424	361	▲ 63	▲14.9%	751	770	19	2.5%
合計	12,518	17,600	5,082	40.6%	30,401	37,800	7,399	24.3%
国内比率	33.2%	25.6%			27.2%	26.4%		
輸出比率	66.8%	74.4%			72.8%	73.6%		

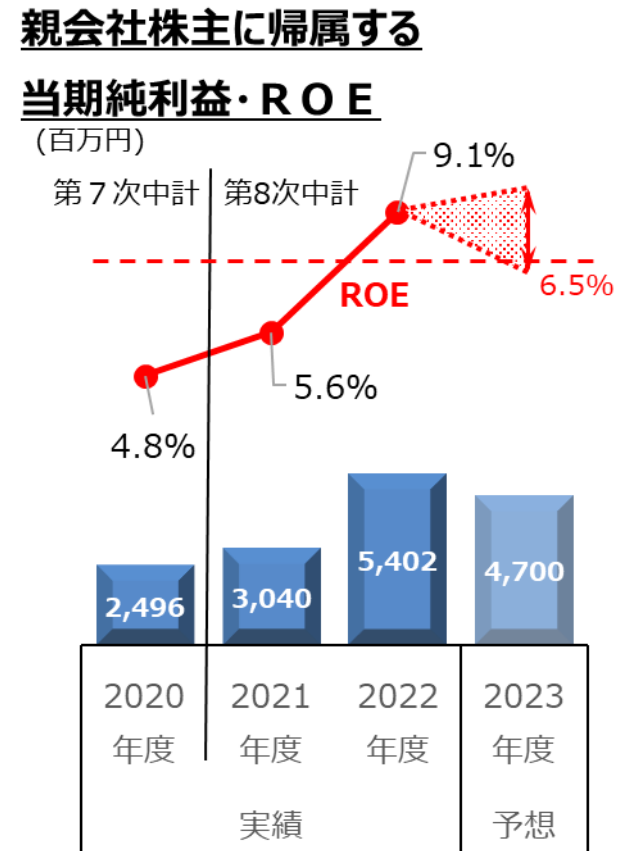
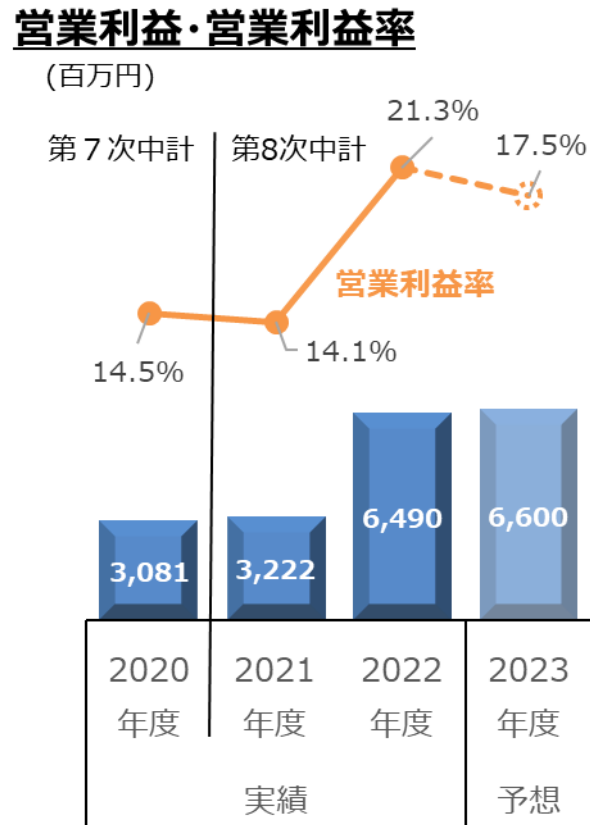
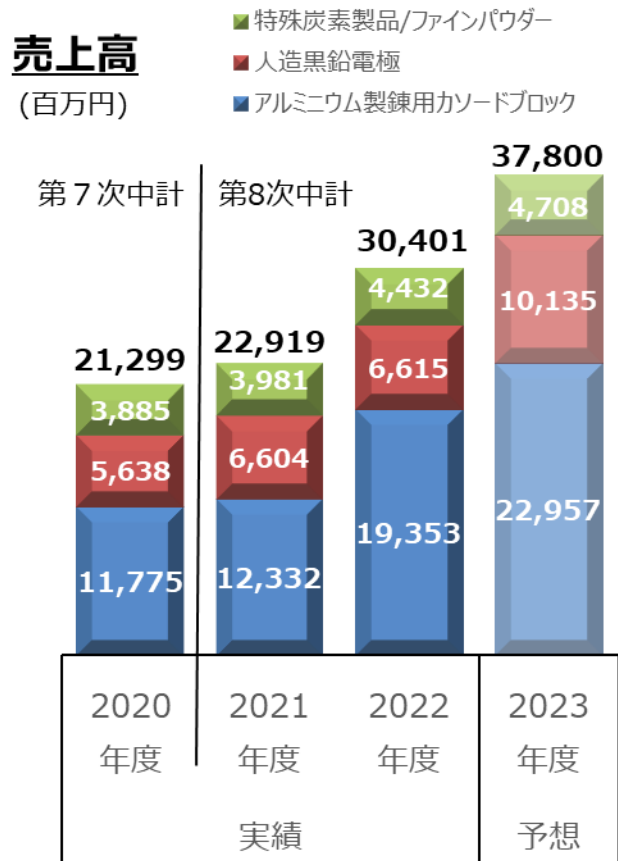
参考指標 (連結)

		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 予想
設備投資	(百万円)	1,726	2,412	1,578	502	2,444	3,916
減価償却費	(百万円)	1,311	1,607	1,473	1,201	1,117	1,637
研究開発費	(百万円)	67	121	151	260	420	433
有利子負債	(百万円)	-	-	-	-	-	-
金融収支	(百万円)	192	256	225	262	526	301
売上高	(百万円)	37,935	35,136	21,299	22,919	30,401	37,800
海外売上比率	(%)	61.2%	62.9%	62.6%	65.2%	72.8%	73.6%
為替レート	(円/USD)	111.15	108.66	106.25	112.89	134.84	125.00
営業利益	(百万円)	16,927	13,823	3,081	3,222	6,490	6,600
営業キャッシュフロー	(百万円)	12,255	4,362	3,367	7,615	2,337	
投資キャッシュフロー	(百万円)	▲ 1,102	▲ 2,544	▲ 1,943	▲ 954	▲ 4,349	
フリーキャッシュフロー	(百万円)	11,153	1,817	1,423	6,661	▲ 2,011	
財務キャッシュフロー	(百万円)	▲ 1,136	▲ 1,039	▲ 1,032	▲ 826	▲ 1,027	
現金及び現金同等物	(百万円)	15,261	16,010	16,385	22,188	19,087	
中間配当金	(円/株)	100	150	100	100	150	170
期末配当金	(円/株)	100	150	100	100	170	170
配当性向	(%)	6.9%	12.7%	32.6%	26.7%	24.1%	29.4%

現行中期経営計画の進捗状況 (第8次中期経営計画：2021～2023年度)

第8次中計 売上・利益・ROE 実績の推移・見通し

売上・利益・ROEともに前期比増の実績で推移。2022年度のROEは第8次中計の目標（6.5%以上）を上回る値となった。第8次中計の最終年度となる2023年度の売上・利益は、第8次中計の目標（売上：340億円、営業利益：60億円）を上回る見通し。



※売上・利益は、子会社を含む連結財務数値

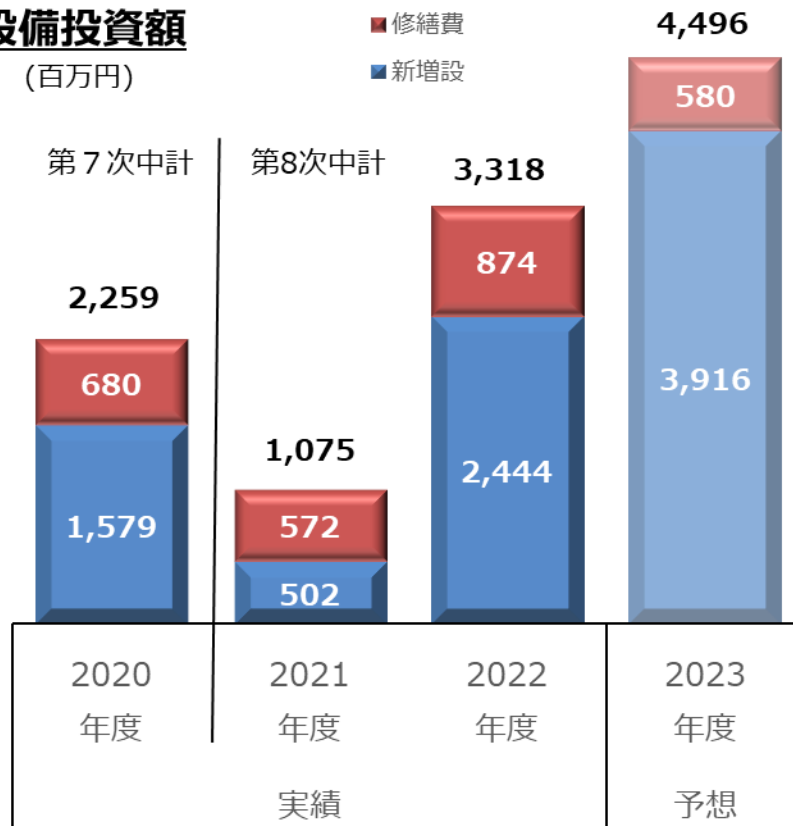
第8次中計 設備投資・減価償却 実績の推移・見通し

焼成炉新設工事は2022年度に完成し2023年度から本稼働。2022年7月に開示した黒鉛化工場建設及び黒鉛化炉新設工事、及び、2022年8月に開示したファインパウダー増産設備新設工事は今後本格化。

設備投資額

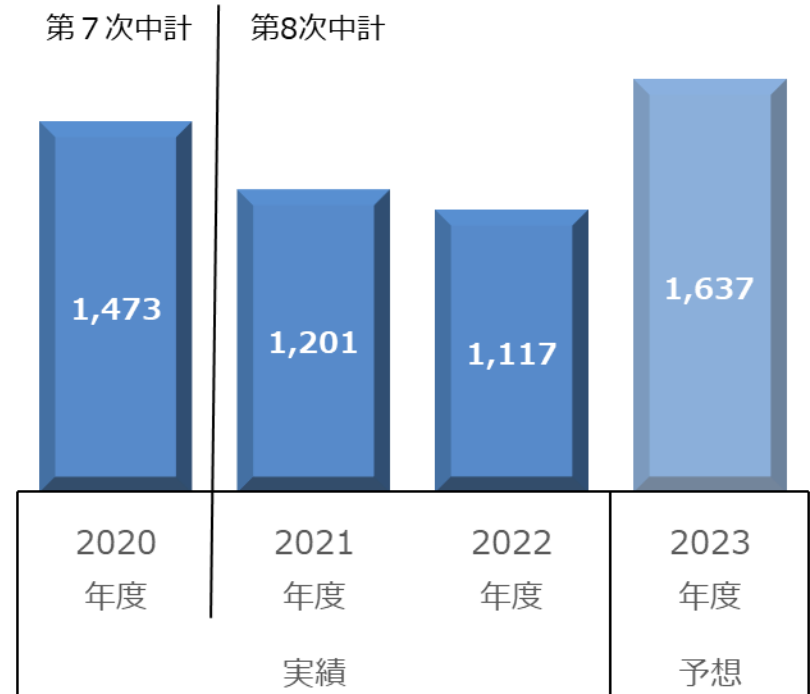
(百万円)

■ 修繕費
■ 新增設



減価償却費

(百万円)



ご参考： 中長期設備投資計画 実績の推移・見通し

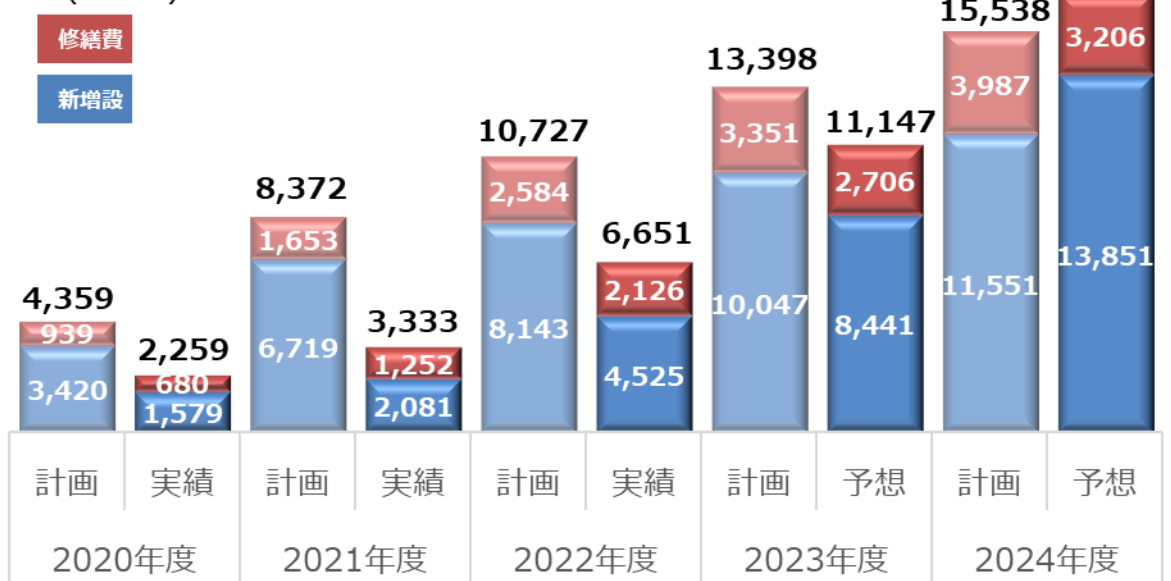
設備投資5か年計画進捗状況 (赤字：見通し)

		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
計画※	新增設 (百万円)	3,420	3,299	1,424	1,904	1,504	11,551
	修繕費 (百万円)	939	714	931	767	636	3,987
	合計 (百万円)	4,359	4,013	2,355	2,671	2,140	15,538
実績	新增設 (百万円)	1,579	502	2,444	3,916	5,410	13,851
	修繕費 (百万円)	680	572	874	580	500	3,206
	合計 (百万円)	2,259	1,075	3,318	4,496	5,910	17,057

※計画値は、2019年6月に策定した本計画上の数値に基づく

設備投資5か年計画 累積比較

(百万円)



2019年6月に開示した中長期設備投資計画（以下、本計画という）に関し、コロナ禍の影響で本計画より設備投資を抑える時期もあったが、5年間の累計ベースでは本計画を上回る設備投資額になる見通し。

新增設のうち、ファインパウダー増産設備新設工事等の案件は本計画の対象外。修繕費については、その圧縮に繋がるプロジェクト活動を継続的に実施。

本計画上の設備投資の大半は老朽化設備の更新であり、その実施より製品の安定供給による売上確保につながるとみている。

第8次中計 株主還元

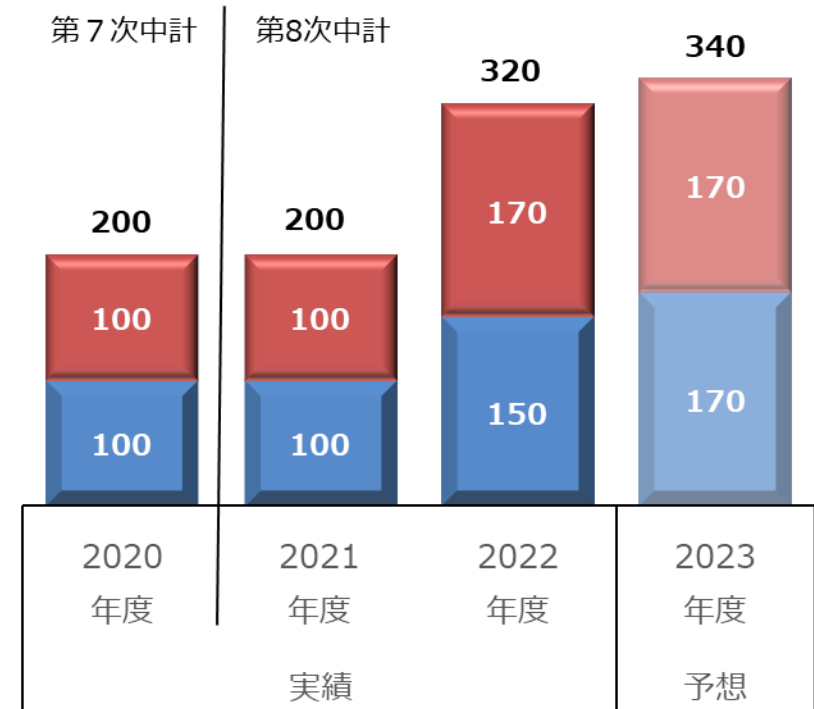
■配当方針

当社は、株主に対する永続的かつ安定的な利益還元を経営の最重要課題と考えており、剰余金の配当につきましては、各事業年度の業績を勘案し、企業体質の強化のための投資に必要な内部留保を確保しつつ、できる限り安定的に実施していくことを基本方針としております。

1株当たりの配当金

(円)

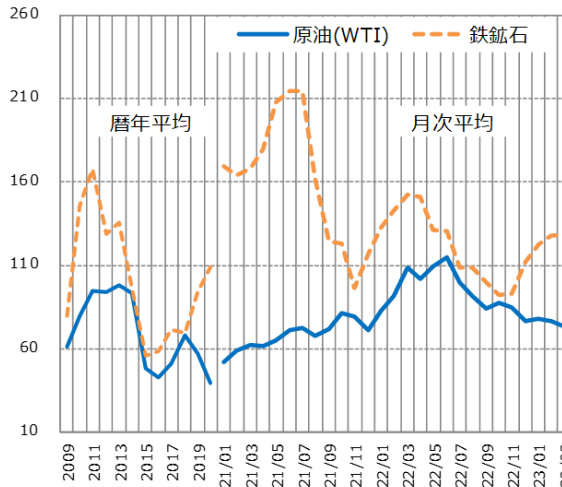
■ 期末配当金
■ 中間配当金



ご参考：マクロ経済指標

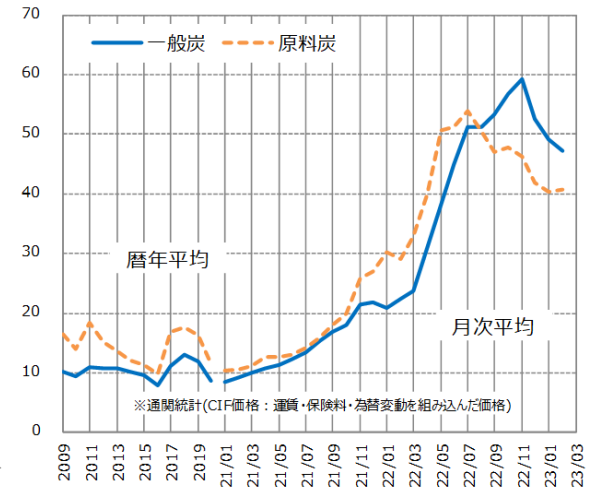
世界経済は、脱コロナで緩やかに持ち直す兆しがあったが、ロシアによるウクライナ侵攻により、エネルギー等の物価高が進んでいる。欧米での利上げ実施により日本との金利差が拡大、円安ドル高の進行が原材料等の輸入コスト高に拍車をかけている。今後、世界景気の更なる減速が予測され、先行き不透明感が強まっている。

● WTI原油価格（\$/barrel）、鉄鉱石価格（\$/MT）



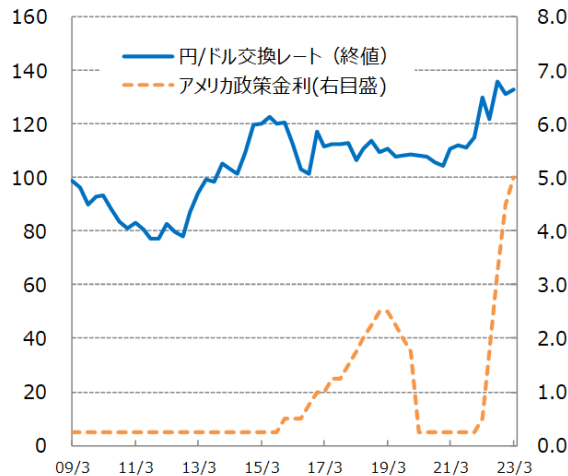
出典：World Bank Commodity Markets

● 一般炭、原料炭（千円/MT）



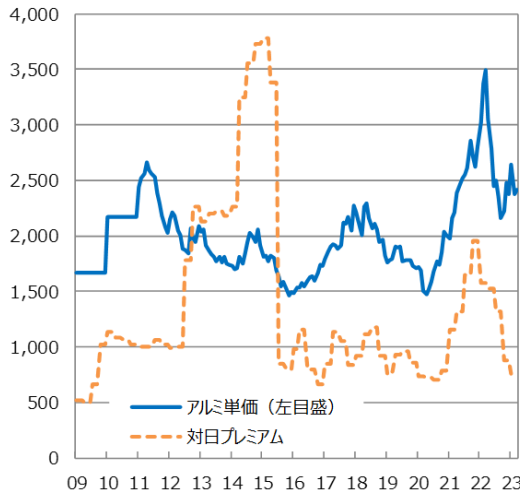
出典：財務省貿易統計

● 為替レート（円/ドル）、アメリカ政策金利（%）



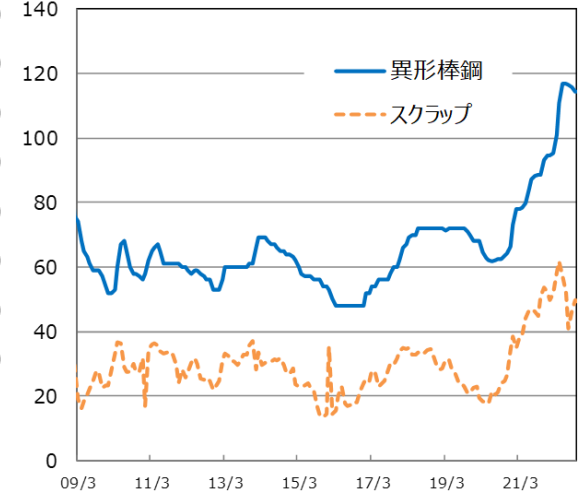
出典 為替：Yahoo!ファイナンス アメリカ政策金利：Federal Reserve

● アルミ価格 LME単価と対日プレミアム（\$/MT）



出典 アルミ単価：LME 対日プレミアム：新聞記事

● 国内異形棒鋼価格、スクラップ価格（千円/MT）



出典：日本鉄リサイクル工業会

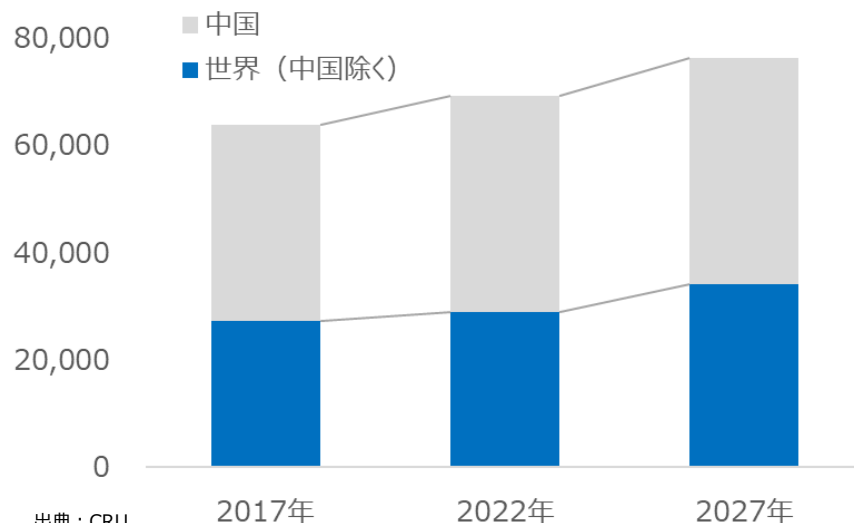
製品別トピックス

アルミニウム製錬用カソードブロック

- 当社は、アルミニウム製錬用黒鉛化カソードブロックのパイオニアであり、現在も主要サプライヤーです。
- アルミニウム製錬炉の重要消費財として使用されており、安定的需要が見込めます。
- 世界のアルミニウム生産量は今後も増加し、同様にカソードブロック需要も伸びることが予想されています。

- カソードブロックには、非黒鉛化品と黒鉛化品があります。
- 黒鉛化カソードブロックを使用することで、アルミニウム製錬所に電力削減効果をもたらすため、電力コスト削減に加えてCO2排出量の削減につながります。
- 黒鉛化カソードブロックを使用するアルミニウム製錬所の割合を増やし、市場拡大による販売増を目指します。

世界のアルミニウム新地金生産量（千トン）



黒鉛化カソードブロック普及による電力使用量とCO2発生量削減への貢献

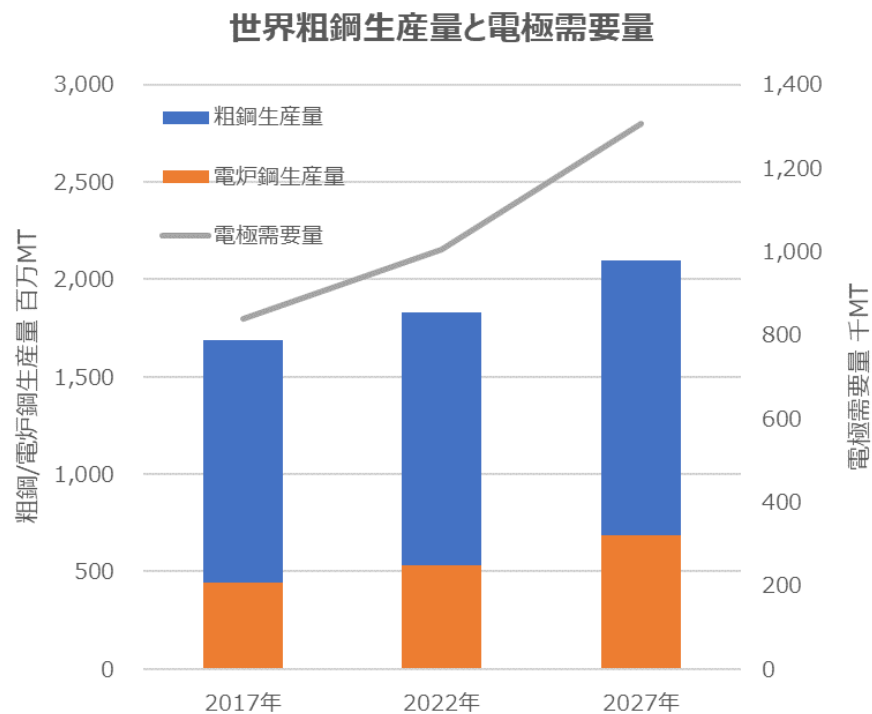


人造黒鉛電極

- 人造黒鉛電極は、電気炉製鋼に不可欠なもので、鉄スクラップを溶解させるために使用されます。
- 鉄鋼業界は、世界の産業別CO2排出量の約3割を占めており、CO2排出量が「高炉法」より約75%低減できる「電気炉法」が注目されています。
- 世界中で「高炉法」から「電気炉法」への切替えが見込まれ、人造黒鉛電極の需要は更に伸びていきます。



- 当社は、更なる品質改善とコスト低減の取り組みを進め、需要増が期待される北米など海外市場にも積極的に拡販を進めていきます。

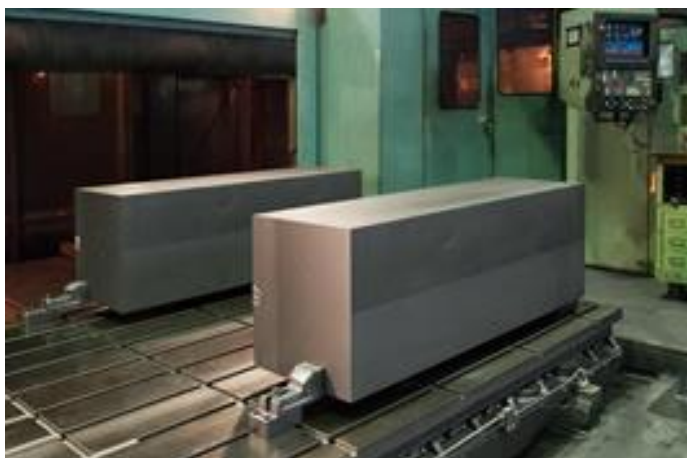


出典：World Steel Association

特殊炭素製品・ファインパウダー

特殊炭素製品

- 押出成形の特徴を活かし、大型・長尺サイズの製品を製造し、さまざまな産業分野で要望される品質および形状に対応の製品を提供しています。
- 特に非鉄金属分野の市場拡大が見込まれており、需要に見合った製品の提供と新規製品の開発を促進していきます。



ファインパウダー製品

- 極めて高い純度と優れた結晶性を持ち合わせた黒鉛粉末ファインパウダー製品は、電池用、摺動材用、塗料用の部材等で、幅広い産業に使用されています。特に電気自動車(EV)関連の市場拡大に伴い、今後大幅な需要の増加が見込まれています。
- 今後、広がる需要に応えるために、生産能力増強を進めていきます。

